

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	smile up なお		
○保護者評価実施期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26 (回答者数)	
○従業者評価実施期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○スタッフの質・専門性 ・有資格者（保育士・教員資格・強度行動障害支援者等）が常駐。 経験が豊富な職員が常駐。	・発達支援や福祉に関する研修への参加。 ・関連している資格の取得。（資格支援制度の充実） ・日々の活動の振り返りや対応の検討会を実施。 ・職員同士が支援についての意見を言いやすい環境の整備。	○定期的な研修・勉強会の実施 ・外部講師を招いた講座や、他事業所との合同研修の開催。 ・同一法人の事業所との情報交換。 ○OJTの強化 ・支援の振り返りやロールプレイで、対応力を養う。
2	○療育プログラムの充実 ・学習支援・運動療育・課外活動・体験学習等の充実。	○楽しみながら学べる活動 ・工作や運動・グループ活動など、子どもが楽しみながら参加できる活動を通して、社会性や協調性を育む。 ・課外活動ではルールやマナーを事前に確認することで、社会性や危険回避能力を育成。	○個別支援計画の見直しと活用 ・子どもの成長に応じてモニタリング、個別支援計画の見直しを行い適切な頻度で更新する。 ・支援内容が「日々のプログラム」と直結するようにスタッフ全体で共有。
3	○利用者が安心できる環境 ・子供たちが安心して過ごせる雰囲気作り。 ・信頼関係を築くことを大切にしたり。 ・過度な支援をせずにここのペースに合わせた療育活動。	○自由時間や自己判断力 ・決められた活動だけでなく、自分の好きな遊びを自由に選べる時間を設ける。 ・お互いがリラックスできる、無理のない空気感を大切にしている。 ・ルールを守れているかや危険かどうかの判断を自分でしっかりと考えられるように接する。	○スタッフの関わり方の質を高める ・無理に指導しすぎず、子どものペースを尊重する姿勢。 ・ちょっとしたことにも笑顔でリアクションを返すことで、暖かい空気をつくる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○施設の物理的環境に課題。	○狭い、プライバシーが守られにくい ○室内だけでは十分に運動をすることができない。	○スペースの区切り方や、照明・音への配慮、感覚過敏への対策を工夫する。 ○室内でも運動欲を発散できるような活動を増やしたり、近隣の公園へ行く頻度を増やしたりする。
2	○保護者との連携不足	○一部の保護者との関わりが限られ、家庭との連携が取りにくい	○面談や個別連絡の機会を増やす、写真付きの活動報告などで様子が伝わるようにするなど興味を持ってもらいやすい環境を作りアプローチをしっかりとる。
3			